

27年7月議会
水道事業について

質問

次に、水道事業について質問いたします。

施政方針では水道料金の値上げについて言及されました。3年前の決算審査の場で2050年までにかかる管渠や施設整備で741億円という数字をもとに水道料金のあり方について議論させていただきました。同僚議員の質問でも直近の施設整備の費用が示されました。

改めて水道部が持っておられる長期的な視点、2050年までという観点から試算される今後の経営予測をお願いいたします。

松木正水道部長

水道部では施設整備の事業費の試算につきまして、定期的にあセットマネジメントを実践しており、昨年度に算出した事業費は、今後40年間で約674億円となっております。

3年前に741億円とお示ししておりましたが、その後、平成25年（2013年）3月に策定いたしました吹田市水道施設マスタープランで、泉浄水所の抜本的な更新を留保することを定めたこと、また、広域的な取り組みにより運間配水場は廃止の方向で取り組むことなど、水道施設の再構築に向けての考え方を反映させた結果、67億円の事業費の縮減ができたものでございます。

それでも、年間平均で約17億円が必要となり、その財源の確保が必要となってくるものです。特に、平成28年度（2016年度）から5年間で約190億円の事業費が必要となっており、水需要が減少し、給水収益が落ち込んでいる中で、現行水道料金のままでは財源が確保できず、施設整備を進めることが困難となります。

そのため、平成28年4月には水道料金の改定が必要であると考えているものでございます。

質問

さまざまな取り組みで事業費削減をしていただいていること、非常に感謝しております。

水道事業を維持するために値上げを決断されたとのことですが、そもそも吹田市の料金は非常に安いということがイメージとしてございます。この安さを実現し続けることができた理由についてお聞かせください。

松木正水道部長

本市の安い水道料金を維持してきたことについてでございますが、配水方式では標高差を利用した自然流下を活用してきたこと、企業団水と比較して安価な自己水を有効に活用してきたこと、施設の長寿命化を図りながら更新費用を抑えてきたこと、漏水調査などの維持管理に努め、高い有収率を確保してきたこと、また、経営の効率化により人件費などを

初めとした費用を縮減してきたことなどにより、1立方メートル当たりの製造単価でございます給水原価を低く抑えてきたことから、安い料金の実現できています。

さらに加えて、本市の料金体系が、逡増制料金をとっており、しかも逡増度が高いことも安い料金の実現につながっています。逡増制料金は、大量に使えば使うほど料金単価が高くなる、そういう制度ですが、反対に言えば少量使用では安くなる、生活者に配慮した体系でもございます。

このように給水原価を低く抑え、維持し続けていること、さらに逡増制により生活者には安い単価で供給していることから、府内で一、二を争う安さの水道料金となっているものでございます。

以上でございます。

質問

安い理由にさまざまな要素があるとのことなんですけども、最後に述べられた逡増制、使えば使うほど高くなるという逡増制について特に伺います。この大口の水道利用者にとっては高くなってしまおうという制度、この現状を維持し続けた場合に考えられるリスクについてお聞かせください。

松木正水道部長

逡増料金制のもと、大量の使用者におきましては料金単価が高くなり、少量使用で原価割れをしている部分を負担していただくという構造になっております。

しかし、企業などのコスト削減の方策や節水により、水需要の構造は大量使用から少量使用へと大きく変化しており、ここ10年間において、いわゆる最高の単価でお使いいただいている水量は、約30%の減少となっております。

さらに、大量使用者である企業などでは、コスト削減の方策の一つとして、地下水利用の専用水道の導入が進んでおります。本市でも平成13年(2001年)以降、現在5件が導入をされ、その減収の影響額は1億4,000万円と推計しております。さらに、今後新たな導入の動きもあり、その影響額はこれまで以上になるものと推測しております。

このような傾向が続きますと、これまで収入面で大きく水道事業を支えていただいております、大量使用者から得られる水道料金は減少し続け、少量使用の水道料金の御負担がより大きくなることが想定されます。

このような状況の中、料金改定にあつては、今後の水需要の構造の変化にも対応できる体系とする必要があると考えており、原価の大部分を占める固定費の回収のため、基本料金と従量料金の割合の見直しを行うこと、逡増度を緩和すること、地下水利用専用水道への何らかの対策を行うことなどについて、現在、検討を進めている状況でございます。

以上でございます。

意見

今まではすごく安い料金を実現できた理由の一つとして逓増制があったと思うんですけども、それを維持し続けた結果、大口利用者が吹田市の水道を離れてしまって、そして結果的に生活者の水道料金もよりアップしてしまうということがないように、そのあたりも大手の利用者さんの方々に意見を聴取して検討いただければと思います。